

サステナビリティの推進と共に

Together

プラネット・プロミス 2023

プラネット・プロミス2023

3	Group Chief Executive's review	CEOからのメッセージ
7	Environmental Leadership	環境リーダーシップ
14	Our People delivering impact	インパクトをもたらす従業員
18	Communities	コミュニティ
22	Positive Procurement	サステナブルな調達
29	Governance	ガバナンス

当社グループの親会社であるコンパスグループPLCは、非トレーディング型の投資持株会社であり、子会社からの配当金を分配可能準備金の源泉としています。当社の報告は、グローバル・レポーティング・イニシアチブ（GRI）およびサステナビリティ会計基準（SASB）に準拠しています。詳細については、ウェブサイトを参照してください。
www.compass-group.com/en/sustainability/performance-and-reports

Compass Group PLC
 Compass House
 Guildford Street
 Chertsey
 Surrey KT16 9BQ
 United Kingdom

イングランドおよびウェールズにて登録済み

登録番号 4083914

2024年1月31日

お問い合わせ：
sustainability@compass-group.com
 T +44 1932 573 000
www.compass-group.com



主なハイライト

 **12%**
 温室効果ガス（GHG）排出量の削減率
 （2022年実績、対2019年ベースライン）

 **約8,000**
 食品廃棄物計量記録テクノロジー導入拠点数

 **160万**
 チャリティ団体に寄付した食数

 **93%**
 全事業拠点のうち、1種類以上のヘルシーメニューを提供する割合

 **6億8,900万英ポンド**
 充当されたサステナブルボンド発行額

CEOからのメッセージ

サステナビリティは コンパスグループの 企業文化に深く根付 いており、私たちの 成功の原動力となっ ています



2023年度のサステナビリティ・レポートでは、サステナビリティへの取り組みの進捗状況、それらが地球に与えるプラスの影響、ならびに当社グループにもたらす営業上のメリットについて詳しくご説明します。サステナビリティは当社の企業文化に深く根付いており、私たちの成功の原動力となっています。さらに、経営と業績評価の枠組みにもサステナビリティ項目を組み入れ、全事業のパフォーマンス向上にもつなげています。

長期的なパートナーシップの構築

サステナビリティは競争優位性をもたらします。初めて委託を検討する企業や、他の大手・地域企業からの新規ビジネス獲得に役立ちます。当社グループは、消費者が求める食事を常に提供するだけでなく、食品がもたらす環境への影響に関する知見を提供することにより、優位性を維持しています。また、健康とウェルビーイングがサステナビリティと密接につながっていることを認識し、私たちはソートリーダーシップ、料理の専門知識、テクノロジーを融合させ、目標達成に向けて活動しています。このアプローチは、当社グループ企業がこの分野で信頼あるアドバイザーとして貢献し、相互に有益で長期的なパートナーシップを構築しているクライアントからも高く評価されています。

食品廃棄物の削減

私たちの最優先課題は、食品廃棄物の削減です。当社は6年ほど前から、食品廃棄物削減に関する変革を起こすための活動を開始しました。現在は、この取り組みは世界的規模でのキャンペーンとなっています。食品廃棄物を減らすことは、地球のためだけでなく、ビジネスのためにもなります。食品廃棄物の計量と報告は、業務の効率化、コストの削減、物価高騰の抑制にも役立ちます。この度、食品廃棄物計量技術を世界の約8,000拠点に導入し、各地域の協力により当初目標の6,000拠点を大幅に上回る成果を達成したことを誇りに思います。

プラネット・プロミス

プラネット・プロミスは、すべての人の持続可能な未来に対するコンパスグループ共通のグローバルコミットメントです。これには、倫理的かつ持続可能で包括的な価値観と、世界にポジティブな影響を与え続けるための目標が含まれています。当社の共通の課題に対する解決策は一つではなく、従業員一人ひとりがそれぞれの役割を果たす必要があります。数千の事業所で働く従業員は、変革を起こし、ベストプラクティスをグループ全体で共有しています。私たちのコミットメントとソートリーダーシップが、クライアント、サプライヤー、消費者、従業員を鼓舞し、集散的な解決策の特定に役立ち、2050年までに気候ネットゼロを達成するための取り組みを加速させることを確信しています。

ドミニク・ブレイクモア
グループCEO

地球にポジティブな影響を与えるための共通課題

プラネット・プロミスの中には、すべての人の持続可能な未来に対する当社のグローバルコミットメントが込められています。これには、倫理的かつ持続可能で包括的な価値観と、地球に良い影響をもたらすという目標が含まれています。

プラネット・プロミスの目標に向けた取り組みを通して、当社の従業員は、グループ全体のイノベーションとコラボレーションを推進し、クライアント、消費者、従業員、その他ビジネスパートナー、地域社会とのパートナーシップを強化するという目標を共有しています。プラネット・プロミスは、2050年までに気候ネットゼロを達成するという共通の目標に向けた当社の活動の指針ともなっています。

ステークホルダーとの連携

人々と地球にもたらすプラスの影響を最大化するために、当社はサステナビリティ戦略と、私たちが最大の成果を達成できる9つのSDGsを運動させました。この中には、炭素削減、アニマルウェルフェア、食品廃棄削減、全事業におけるプラントフォワードメニュー提供の拡充、インクルーシブな企業文化の創造と従業員の健康とウェルビーイングへの配慮などに関するコミットメントがあります。

当社グループ企業は、様々なステークホルダーと緊密に連携し、自社事業の持続可能性を最大化するため、効果的な共同作業を行っています。当社が事業を展開する各国で、ステークホルダーとの継続的な対話を維持し、ビジネス分析ツールを活用して、企業レポートや義務・自主規制、ニュース、ソーシャルメディアなどの情報を確認しています。

当社がグローバルで多様な地域事業を運営するためには透明性の高さと、サステナビリティのガバナンス体制が必要不可欠です。これは、グローバル倫理・誠実性やスピークアップ・ウィーアールリスニングプログラムなどで裏付けられています。当社が定める企業行動規範、グローバル・サプライチェーン・行動規範、スピーク・アンド・リッスンアップ規則、人権、ビジネス・インテグリティ、ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン、環境と安全衛生の各方針の詳細については、当社のウェブサイトをご覧ください。 www.compass-group.com/en/who-we-are/corporate-governance/policies

マテリアリティ評価

2023年、私たちはマテリアリティの評価法を見直しました。この評価は、幅広いトピックに関する潜在的な財務リスクと機会を把握する際に役立つのみならず、当社の行動が地球と社会にどのような影響を与えるかについてより深く理解するためにも役立ちます。評価のプロセスには、当社の全事業分野にわたる社内外の幅広いステークホルダーが関わりました。また外部のステークホルダーには、消費者、サプライヤー、流通業者、NGO、投資家、対象分野のトピック別の専門家を含めました。

結果的には、前回のマテリアリティ評価で重視したトピックを精緻化したものがほとんどですが、今回のプロセスにより、当社が組織レベルで与える影響について、より詳細に理解することができました。今後、ここで得た知識をもとに自社戦略をさらに精緻化し、マテリアリティへの取り組みに注力していきます。

コンパスのサステナビリティ戦略では、9つのSDGsに対する貢献を重視しています

2

気候変動をゼロに

3

すべての人に健康と福祉を

5

ジェンダー平等を実現しよう

8

働きがいも経済成長も

12

つくる責任つかう責任

13

気候変動に具体的な対策を

14

海の豊かさを守ろう

15

陸の豊かさも守ろう

17

パートナーシップで目標を達成しよう

ESGトピック	コンパスの活動
 環境	気候変動への適応と緩和
	当社グループによる直接的・間接的な温室効果ガス排出量（スコープ1、2、3）の削減に取り組み、気候変動の影響にも耐性のあるサプライチェーンを構築します。
	自然と生物多様性
	森林減少、乱獲、生物多様性の損失など、当社の調達活動が自然生態系に与える影響を最小限に抑えるための政策、基準、プログラムを策定します。
	食品廃棄物
	生産者からキッチンまでバリューチェーン全体で食品廃棄物を削減し、事業で使用するプラスチック包装の量を削減し、可能な限りサステナブルな代替品を導入します。
 社会	インクルーシブな人材採用と定着
	当社の従業員が成果を挙げ尊重される環境を整備するとともに、事業を展開する地域社会への寄与を目指して多様・公平・インクルーシブな職場環境を構築します。これには公正な労働条件と適切な賃金の提供も含まれます。
	健康・安全・ウェルビーイング
	グループ全体で健康・安全・ウェルビーイングを尊重する企業文化を醸成します。
	労働者の権利
	事業活動の中で人権の擁護に努め、常に公正で尊厳と敬意を持って他者と接します。
	バリューチェーンで働く人々
	コンパスグループのサプライチェーンにおける倫理原則、人権、労働基準をさらに向上させます。
 ガバナンス	食材の透明性
	消費者に正確な製品情報を提示し、あらゆる製品クレームに確実に対応します。
	サステナブルでヘルシーな食事
	グループの全企業が、サステナブルで高品質な食材と、消費者に評価されるヘルシーなメニューを提供します。
	食品安全
	コンパスの事業全体で食の安全文化を推進し、従業員の意思決定、活動、行動を導きます。
 ガバナンス	企業倫理と誠実さ
	企業行動規範（CBC）およびその他のグループ・ポリシー（ビジネス・インテグリティ・ポリシーなど）を実践し、コンパスグループのグローバルな倫理と誠実さ（E&I）プログラムを通してさらに強化します。
	贈収賄・汚職の防止
	誠実さを重視する企業文化を支持し、E&Iプログラムや独自運営のスピークアップ・ウィーアールリスニングプラットフォームなどを通して活用しています。特に新たなリスクや事件の防止、検知、対応、ならびに必須トレーニングや啓発プログラムに力を入れています。
 ガバナンス	サイバーセキュリティ、プライバシー、データセキュリティ
	サイバーリスクの評価と、コンパスグループのエンタープライズ・インフラストラクチャ、プラットフォーム、セキュリティ・コントロールの成熟度を監視・管理します。適切な危機管理手順を整備し、AIの利用に関する原則ベースのルールを遵守します。

コンパスグループの サステナビリティ・ロードマップ

2004

2004

国連グローバル・コンパクトに
参加

2010

持続可能なパーム油に関する
ラウンドテーブルに参加

CDPLレポート開始

2016

グローバル・ケージフリー・
コミットメント発表

2017

2017

第1回ストップ・フード・ウェイスト・デーを
米国で開催

グローバル・サステナブル・シーフード・
コミットメント発表

グローバル・パーム油・コミットメント発表

2018

初のグローバル・
サステナビリティ・レポート
発行

グローバル初ストップ・
フード・ウェイスト・デー

イート・フォーラムとの
パートナーシップ

ピープル、パフォーマンス、
パーパス戦略立ち上げ

2020

グローバル・サステナブル・
シーフード・イニシアチブに参加

2021

2021

SBTおよびネットゼロ目標設定

テラ・カルタに参加

ソーシャル・バリュー・インターナ
シナショナルに参加

スレーブフリー・アライアンスに
参加

グループ倫理・誠実性プログラム、
戦略、優先事項を刷新

気候関連財務情報開示タスク
フォース（TCFD）に報告

スピークアップ・ウィーアー
リスニング・プログラムを
グローバルで再スタート

2022

グローバル・サプライヤー
行動規範を策定

UK&Iビジネスが、サー・
チャールズ・ゴドフリー教授を
気候変動と持続可能性
アドバイザーに任命

フードサービス業界初の
サステナビリティボンドを発行

国際食品廃棄物連合（IFWC）に加盟
ウェイスト・ノット 2.0の
グローバル展開を開始

グローバル人権ポリシーを更新

2023

気候変動コンサルタント
Planet FWDとの新たなパートナ
シップを締結

グローバル料理フォーラムを
立ち上げ

投資家向け第1回サステナビリティ・
ディープダイブを開催

執行役員および上級管理職の年間
賞与計画にサステナビリティ指標
を追加

総排出量を12%削減（2022年実績、
対2019年ベースライン）

企業行動規範をグローバル規模で刷新
コンパスグループ財団を設立

2024

環境リーダーシップ

Leadership



バリューチェーン全体で2050年までに
気候ネットゼロを達成



2030年までの自社事業の
カーボンニュートラルを達成（スコープ1&2）



2030年までにスコープ1&2の直接排出量を
46%削減



2030年までの科学に基づく目標を承認



2030年までに購入する飲食物に伴う
スコープ3排出量を28%削減



2030年までに食品廃棄物を50%削減

今日、コンパスグループは戦略的パートナーとして選ばれています。

当社はサステナビリティにおける機動的で革新的なリーダーとして、自社の成長を支え、意欲的な気候変動対策目標を設定しています。具体的には、2050年までに世界全体の気候ネットゼロを達成するために排出量の削減に取り組み、目標の達成に向けたマイルストーンを設定しました。

2030年、当社の科学に基づく目標イニシアチブ（SBTi）と運動させたグローバル・コミットメントには、2°Cを大きく下回る目標に沿って仕入れたすべての食材や飲料からの温室効果ガスの絶対的なスコープ3排出量を28%削減し、将来の温暖化を産業革命前の水準から1.5°Cに抑えるという目標に沿って、スコープ1および2の温室効果ガスの絶対的な排出量を46%削減することが含まれています。スコープ1とスコープ2では、2030年までにグループ全体でカーボンニュートラルを達成することを約束し、地域に特化した独自の脱炭素ロードマップを策定できるようにしました。

グループ全体では、より環境に配慮した取り組みを進めています。これには、クライアント、サプライヤー、消費者、従業員、との連携を通じたメニューの見直し、プラントフォワードメニューの推進、食品廃棄物の削減、保有車両の電動化などが含まれます。

環境改善をリードし、イノベーションを推進することで、地球規模の気温上昇、水リスク、異常気象から世界の食料システムを保護することができます。

環境リーダーシップ

気候ネットゼロへの道のりを 順調に歩んでいます

スコープ3排出量の推移

当社は、食料・農業産業を専門とする大手炭素管理コンサルタント会社であるPlanet FWDと提携し、2050年までに気候ネットゼロを達成するための道のりを順調に歩んでいます。Planet FWDとのパートナーシップにより、排出量の測定方法を改善し、サプライチェーン（スコープ3）データの質を高めることができました。当社グループの温室効果ガス排出量の大部分は、当社グループが間接的に責任を負うスコープ3（サプライチェーン由来）です。Planet FWDと連携してスコープ3の排出量を測定することにより、サプライヤーと協力した製品・サービスの排出削減に必要な情報を得ることができます。

2022年のスコープ3の総排出量は、当社の売上高の78%を占める米国、英国、フランス、オーストラリアの上位4市場について、数量と支出のハイブリッドアプローチを用いて計算し、小規模市場に外挿しました。特に、ベースラインからの最も重要な排出源である購入品のデータの質を高めることに重点を置きました。このデータの質の向上により、2022年における食品関連の排出推定値がより詳細になり、予測排出量が低下しました。

今年報告を行った2022年のスコープ3排出量を確定する際のデータ精度の向上には半年を要しました。2019年の評価では、クライアントのキッチンにおけるエネルギー使用量を過小評価していましたが、その後2022年には使用量が増え、購入品で達成した排出削減が部分的に相殺され、全体の排出削減は12%となりました。

当社グループでは、2030年のスコープ3削減目標を達成するために、最も効果的なアクションを積極的に特定し、実行しています。これは、食品廃棄物の削減に焦点を当て、チームのスキルを高め、メニューを再構築し、サプライヤーと緊密に協力して新しい持続可能なビジネス慣行を模索することを意味します。

**12%**
温室効果ガス（GHG）排出量削減率
（2022年実績、対2019年ベースライン）

当社の2022年 総排出量フットプリント¹



■ キッチンからの排出	26%
■ 自社拠点的運営	2%
■ 購入した商品・サービス	67%
■ 輸送と移動	5%

¹ スコープ3排出量を報告するためのデータ精度の向上には半年を要し、その結果、本年は2022年排出量を報告しました。

今後の取り組み

当社はまた、2024年のSBTiの下での新たな森林・土地・農業（FLAG）ガイダンスとの連動にも取り組んでいます。SBTiのFLAGガイダンスは、土地集約型セクターの企業が、土地ベースの排出削減と根絶を含む科学的根拠に基づく目標を設定するための世界初の標準的な方法を提供しています。今後1年間は、FLAGガイダンスを活用して排出量の内訳をさらに分析し、農業、林業、その他の土地利用によるグローバルな温室効果ガス排出量を削減していきます。

2024年には、業界をリードするテクノロジーを駆使し、当社が事業を展開する大規模市場における排出量を報告するためのデータを管理し、当社グループ企業とクライアントが協力して炭素削減イニシアチブを推進する機会を特定するためにPlanet FWDと連携した取り組みを次の段階に進めます。

脱炭素化を加速するための当社の戦略は以下の4つの重要な施策に基づいています。①シェフとサプライヤーの両方から排出される食品廃棄物の削減を推進する、②サプライヤーに対して、排出量の削減と気候削減目標に対する進捗を示すよう奨励する、③シェフと協力して植物性タンパク質を積極的に取り入れたメニューを開発する、④消費者が持続可能な方法で調理したプラントフォワードメニューを選択しやすいように商品レイアウトを通して行動変容を促す。

当社は、サーキュラーエコノミーを促進し、事業活動やイニシアチブ全体で再利用可能なソリューションを導入することに引き続き取り組んでおり、持続可能性の目標をサポートし、データ駆動型の意思決定を可能にするテクノロジーに引き続き投資します。

当社の脱炭素化の優先事項：

-  食品廃棄物の削減
-  サプライヤーとの連携
-  メニューの調整
-  行動変容に役立つ情報提供

気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）

気候変動に対処するためには、各国における企業経営にどのような影響があるかを把握しておくことが不可欠です。当社は、TCFD開示を通して、投資家および広範なステークホルダーに、当社の気候関連リスクに対するエクスポージャーと戦略的レジリエンスに関する詳しい情報を提供します。この開示はまた、当社グループにとって最も重要な気候関連の機会の特定にも役立ちます。当社は、この声明で評価したすべてのリスクと機会は業界全体にわたる広範なものであり、当社が関わる各セクター、競合他社、その他の主なステークホルダーに適用されると考えています。

2023年の分析の結果は、範囲が拡大されたにもかかわらず2022年の調査結果と一致しており、コンパスは、ダイナミックな運用と戦略的な手段を通して気候リスクと市場圧力に対応できる体制にあることが確認できました。当社は今後も、専門家と協力して、自社の分析の範囲を引き続き見直し、将来のプロセスを進化させてまいります。最新のTCFD開示については、ウェブサイトをご覧ください。



Foodsteps（英国およびアイルランド）

メニューのカーボンフットプリントをより良く理解するために、コンパスグループはFoodstepsと戦略的パートナーシップを結びました。Foodstepsは、食品の持続可能性の背後にあるデータ、テクノロジー、科学を組み合わせ、企業が自社の事業運営の影響をより簡単に把握し、軽減できるように支援するプラットフォームです。

このパートナーシップは、コンパスの約4,000人のシェフが毎年提供する1億8000万食以上の食事のカーボンフットプリントの測定に役立っています。

Foodstepsのプラットフォームを活用することにより、数千種にのぼる食品、飲料、レシピ、製品のカーボンフットプリントのスコアにアクセスし、影響の少ないメニューをリアルタイムかつ迅速に開発できるようになります。コンパスのレシピの分析はすでに始まっています。当社は、担当チームが、最も影響力のある3つの施策（原材料、販売構成、サプライヤー）を自由に駆使して、栄養と味を維持しながら変革を推進するように積極的に奨励しています。成功例として、ポロネーズソースの再開発があります。これにより一食あたりの二酸化炭素排出量が59%削減されました。

すべての運営チームは、プラットフォームにアクセスして、脱炭素化の取り組みの商業的影響を確認することができます。さらに提供された知見を、さまざまな食品サービス部門ですでに進行中の脱炭素化の取り組みに役立て、取り組みの成果を加速することも可能です。

このパートナーシップにより、コンパスは、生物多様性や水などの環境指標の測定に焦点を当てたパイロットプロジェクトを支援し、コンパスと当社のクライアントが世界中の取引で広範に活用しているシステムの不安定化を回避するニーズに対処することができます。

影響レポートの詳細については、ウェブサイトをご参照ください。 www.compass-group.co.uk/our-impact/our-climate-promise/

スコープ1および2の削減（米国）

米国では、Canteenの倉庫業務が、セクターの炭素排出削減における最も重要な機会となっています。Canteenは2022年にサンフランシスコ・ベイエリアの支店でサステナビリティプログラムの試験運用を開始し、持続可能性検証リーダーであるSCS Global Servicesの検証により、2023年5月にスコープ1&2排出量のカーボンニュートラル認証を取得しました。達成した主なイニシアチブには、倉庫の冷蔵庫と冷凍庫の更新、新しい廃棄物管理プロセスの実施、96%の廃棄物の転用、再生可能なエネルギー構成の100%導入、スコープ2の排出量の削減、電動冷蔵トラック10台への投資などがあります。

環境リーダーシップ（つづき）

食品廃棄物の削減は私たちの最優先課題

食品廃棄物の削減

食品廃棄物の削減は、食品業界が直面する最大の環境課題の一つであり、当社が大きなインパクトをもたらすことのできる分野です。この課題に取り組むために、当社グループ企業の調理チームと最前線で活躍するスタッフは、食の市場全体で、さまざまな食品廃棄物の削減技術システムを活用しています。

当社は今年度、食品廃棄物の削減を最優先課題と位置づけました。食品廃棄物の計量技術を世界6,000拠点に導入することを目標としていましたが、各地域が丸となって取り組みを実行した結果、執行役員および経営幹部の賞与制度の一部と連動させた目標を上回り、7,943拠点で導入することができました。

当社グループ全体のシェフが、食品業界における革新的な持続可能性への取り組みをボトムアップで推進しており、今年は食品廃棄物という重要な問題を中心とした第1回「グローバル料理フォーラム：変化を生み出すシェフたち」を開催しました。このフォーラムは、最前線のチームが集まり、食品廃棄物の削減について理解を深め、ベストプラクティスを共有し、調達、在庫管理、メニュー作成、技術応用などの分野における専門知識を交換するためのプラットフォームとなっています。4つのタイムゾーンで実施したこの画期的なイベントには世界中から3,000人以上のシェフが参加し、コンパスの料理専門家が一堂に会する過去最大規模キャンペーンとなりました。

毎年、全世界で生産される食品の3分の1が廃棄されています。当社は、食品廃棄物を削減するためにサプライヤーと協力し、厨房の廃棄物を削減するためにシェフと協力して、ホスピタリティ業界をリードし続けています。当社は、教育、キャンペーン、メニュー計画、廃棄物管理技術のグローバル事業への展開を通して、食品廃棄物の削減で大きな進展を遂げました。これにより、バリューチェーンのすべての人が予防と再配布を通して食品廃棄物を削減できるよう支援しています。

食品廃棄物計量技術を 約8,000拠点に導入

ストップ・フード・ウェイスト・デー

コンパスUSAは、食品廃棄物の問題に業界全体でポジティブな影響を与えるために、2017年にストップ・フード・ウェイスト・デー（SFWD）を開始しました。当初は自社の厨房で食品廃棄物を減らすための取り組みとして始まりましたが、その後グローバルな年次キャンペーンへと発展しました。コンパスは、フードサービスのグローバルリーダーとして、その規模を活かした独自の活動を通して、食品廃棄削減に対する意識向上に貢献しています。

SFWDでは、食品廃棄の問題に関心を持つだけでなく、廃棄物を削減するための実践的かつ効果的な方法を従業員全員で共有し、行動変革を行っています。また、消費者、企業、非営利団体、政府機関が集まり、世界規模で問題に取り組むことを奨励しています。

今年は70か国以上が参加し、成功裏に終わりました。このキャンペーンは世界的な規模で反響を呼び、さまざまなメディアを通して9,300万人以上の人々と繋がり、X（旧Twitter）だけで2,600万ビューを達成しました。コンパスUSAは、著名な食品廃棄問題に関する専門家たちを招いてSFWDライブセッションを開催し、エンゲージメントを高めました。

食品の廃棄は、栽培、収穫、加工、調理に使用されるエネルギーの浪費でもあり、特に食品廃棄物の埋め立ては、強力な温室効果ガスであるメタンの排出を引き起こす可能性があります。SFWDは、食品廃棄物の悪影響と、この問題を解決するために私たちに何ができるかを考える良い機会です。



ウェイスト・ノット 2.0

コンパスグループは昨年、タブレット型計量ツール、ウェイスト・ノット 2.0を自社開発しました。以降、9つの言語で展開し、12か国で導入されています。ウェイスト・ノット 2.0により、事業所は、リアルタイムの計量とダッシュボードレ

ポートを活用しながら、通常業務で発生する加工くず、魚の骨、野菜の皮などの食品廃棄物を最小限に抑える手段を特定し、生産性を高めます。シェフの目線で開発されたこのツールは、マネジャーがデータを分析してサステナブルな解決策を見つける際に役立ちます。マネジャーは、このツールの分析結果を活用して、食品廃棄物のカーボンフットプリントに関するデータの評価、定量化、レポート作成を行い、今後の廃棄物を削減することができます。

このデジタルプラットフォームは、コンパスグループUSAのシェフが設計したもので、マネジャーはツールにアクセスしてデータを迅速に分析し、厨房から出る廃棄物の炭素への影響を測定・報告し、食品廃棄物を削減するサステナブルなソリューションを提供します。

この成功を受けて、コンパスUSAは、同じシステムを米国内の数千ヶ所の厨房に導入するとともに、世界中の料理チームにも提供を進めています。ウェイスト・ノット 2.0は現在、イタリア、オーストリア、ポルトガル、アラブ首長国連邦など、世界の3,500拠点に導入されています。また、まもなくカナダでも導入が開始されます。新しいテクノロジーは、2030年までに食品廃棄物を半減させるという当社の目標を達成するための活動を支えており、また、クライアントのESG指標にも貢献しています。

当社は、クライアント、サプライヤー、従業員、NPOパートナーと協力して引き続きこの取り組みを展開しています。そのパートナーの1つであるNGOのReFEDは、デー

タ主導の先端的ソリューションを提供しています。私たちはReFEDのデータをウェイスト・ノット2.0に取り入れていきます。これにより、新しい戦略を立てし、水の使用量と炭素排出量の影響に関する正確な情報を開示するための

知見が得られます。また、国際食料廃棄連合（IFWC）と協力し、食品ロスや廃棄物の削減に率先して取り組み、業界全体の模範となるよう取り組んでいます。

ウェイスト・ノット 2.0は 9つの言語、12か国で展開



環境リーダーシップ（つづき）

ヘルシーでサステナブルな食生活の推奨

プラントフォワードメニューの提供促進

当社は、ヘルシーで栄養価が高く、おいしい食事の提供をサポートする当社の管理栄養士や栄養士の貢献を高く評価しています。また、サステナブルかつヘルシーなプラントフォワードメニューを取り入れるよう消費者に提案し続けるシェフたちにも心から感謝しています。

環境や気候に配慮した消費者にとっても魅力的なメニューの開発は、当社のサステナビリティに関する取り組みの重要課題です。コンパスグループは、業界の最前線に立ち、優れた調理技術を活かして、健康維持をサポートするおいしい食事を提供しています。取り巻く規制の変化に伴い、当社は、従業員と消費者のウェルネスを促進するためのガイドラインを策定しています。

最新のGlobal Eating at Workの調査によると、若年消費者の49%が植物由来のオプションへの需要が高まっていると回答しました。これを受け、当社では、牛肉やラム肉など環境への影響が大きいタンパク質を含む鶏肉やサステナブル・シーフードに置き換えるアプローチを採用しています。味に妥協することなく、加工を最小限に抑えた植物由来の食品を取り入れ、赤身肉の使用を減らし、動物性タンパク質と植物性タンパク質の割合を調整しています。さらに、気候に優しいメニューと題し、あえてベジタリアンやビーガンと表示せずとも環境に優しい食材の消費を推進しています。

当社は、持続可能な開発のための世界経済人会議（WBCSD）のメンバーであることを誇りに思い、ポジティブ・コンサンプション活動のワークストリームにおいて共同議長を務めることにより、プロジェクトに参加するフードサービス加盟企業のための行動変容ツールキットの開発に尽力しています。このプロジェクトでは、消費者がより健康的な食習慣を身につけ、より健康的な地球の未来のために必要な変革を促進するためのソリューションを開発することにより、食品システムの変革を推進しています。

行動の変化とウェルネス

当社のシェフは、行動変容の可能性を活用し、ナッジ戦略を用いて、ウェルネスを高め、より健康的な選択肢へと消費者を導いています。この取り組みは、持続可能な方法で調達した植物由来で栄養価の高い料理を広く受け入れてもらうための貴重な機会につながります。

行動変容の戦略には以下のようなものがあります：

- **選択肢のディスプレイ**：健康に焦点を当てたメニューを目立つ場所に戦略的に配置し、消費者の目を引くようにします
- **情報提供**：包括的な成分および栄養情報を提供するとともに、より良い食事の決定を行うための実践的なアドバイスを提供します。当社の目標は、充実した暮らしを支える健康的な選択を下すために必要な知識を消費者に提供することです
- **インセンティブ**：消費者をより健康的な選択に導き、健康を促進するメニューを選択していただくために、特別なロイヤルティリワードポイントなどのインセンティブを提供します
- **エモーショナルなアピール**：植物性タンパク質の摂取量の増加や赤身肉の消費の減少に関する毎月の最新情報をお伝えすることで、ポジティブな選択を強化します。これは、より健康的な食事という共通の目標を推進するために役立ちます
- **社会的影響**：社会的行動による影響力を活用して、学生たちが健康を意識した新しい選択肢を受け入れ、選択した事例を追跡し、伝えています。ここでは、個人の選択に影響を与える各事例の需要と好ましさを示します



93%

少なくとも1種類の「ヘルシーメニュー」を提供しているの事業拠点の割合



環境リーダーシップ（つづき）

サステナビリティ目標の達成に向けたテクノロジーの活用

当社グループ企業では、サステナビリティの目標を達成するために、報告、ラベリング、行動変容を支え、強化するためのデータとテクノロジーのソリューションを導入しています。

当社は、テクノロジーへの投資を通して、持続可能性戦略のすべての分野においてデータ駆動型の知見をもとに意思決定を下しています。当社グループ企業は、独自の食品廃棄物系計量技術ウェイスト・ノット 2.0などのリアルタイムツールや、気候管理プラットフォームPlanet FWDを介して提供するデータを用いて、ESG指標全体の進歩を可視化するダッシュボードをクライアントに提供しています。

当社は、意欲的な自社目標の達成を支えるために、今後もこうした投資を継続しサプライヤーとの倫理データ交換プラットフォーム（Sedex）を使用してサプライチェーンのリスク管理を強化し、エコラベルを使用して購入時の消費者行動に影響を与えています。これらのラベルは、英国のFoodstepsの支援によるもので、食品の生産から消費までに発生した総温室効果ガス排出量に基づいて環境影響の高低を点数化しています。当社は、経営モデルにテクノロジーを導入する際に、常に価値の創造を追求します。その一例が、消費者が当社のビジネスオンライン注文アプリを利用することにより実現する食品廃棄物の削減です。

リサイクル可能な包装の利用促進

当社は、資材の再利用を促進するための循環型アプローチを推進しており、リサイクルした包装材の優先的に使用しています。

包装は世界的な使い捨て文化の大きな要因となっています。当社は、プラスチックの過度な使用を可能な限り排除することを目指しています。当社は、食品の安全性において包装が果たす重要な役割を認識する一方で、サステナブルな行動をとる責任についても認識しています。

Giki（英国およびアイルランド）

さらなる行動を促すための行動変容を支えたもう1つのイノベーションがGikiでした。Gikiは受賞歴のあるB CorpとUN Race to Zeroのアプリで、従業員が地球のために何ができるかを学ぶために役立ちます。科学に基づいたカーボンフットプリント計算機と、個人がライフスタイルや予算に左右されず、より持続可能な生活を送るために実行できる160以上のステップを組み合わせています。

このアプリは、ライブセッションや教育コンテンツで環境課題を取り上げ、人々に気候変動への対策を促しています。また、可能な限り多くの気候変動対策を奨励するために、リーダーボードとの持続可能性ゲームやコンテストも提供しています。持続可能性のリーダーは、Gikiコミュニティのチーフ・グリーンリーに参加して、気候変動対策の波及効果をどのように生み出しているかについて他の組織から学ぶこともできます。

コンパスは、食品業界における使い捨て材料への依存を減らすために協力している大手食品サービス企業、NGO、技術専門家による業界横断型のコラボレーショングループ Single Use Material Decelerator（SUM'D）のメンバーであることを誇りに思っています。サプライヤーと協力し、当社は、使い捨て製品や化石燃料ベースのプラスチックに代わる持続可能な代替品への変更に努めています。当社の事業では、不要なパッケージを積極的に削減し、再利用可能なソリューションを導入するとともに、より環境に優しい代替品を探し続けています。

Coffeeloop（日本）

Coffeeloopプロジェクトでは、日本のコンパスが運営するカフェが廃棄するコーヒーかすを間伐材や再生プラスチックと混ぜ、Coffeeloopカップとして再利用しています。このカップは、多くのエシカル商品が輸入品である中で、全て国内で生産することにより、輸送中に発生するCO2排気の削減につながります。また、このプロジェクトでは、コーヒーかすの廃棄物の収集と配達に障がい者を雇用することにより、地域社会のインクルージョンを支援しています。現在は、コーヒーかすをさらに他の製品にアップサイクルする方法を開発企画を進めています。

再利用可能なフードボックス（カナダ）

カナダでは、消費者が少額の返金保証金で環境に優しく再利用可能なパッケージを選択できるFriendlierアプリを導入し始めました。食事をこのような容器で提供し、消費者は食後にFriendlierアプリを使って容器のQRコードをスキャンし、指定されたゴミ箱に容器を返却できます。容器は回収、スキャン、洗浄、消毒した後に、再利用されます。消費者は、アプリを通してデポジットの払い戻しを受け、希望する慈善団体に寄付することができます。

一方、保証金が組み込まれたモデルを選択することもできます。ここでは消費者への保証金の請求や返金はありませんがFriendlierプラットフォームを通して活動の成果を追跡することができます。カナダのチームは、環境に対する影響の軽減を目指し、クライアントと協力してFriendlierを広く展開する予定です。

サラダドレッシング・スポット（スペイン）

スペインのコンパスでは、未使用のまま捨てられているオイルやビネガーの1回分の廃棄量を削減する機会を見出しました。この無駄を減らすために、チームはクライアントの食堂にサラダドレッシング・スポットを定位置に配置し、今年はオイルやビネガーのポーションの使用量を948,000回分削減しました。これにより、使い捨て製品の廃棄量を2,370kg削減し、9,557kgのCO2を削減しました。オイルやビネガーの無駄な使用をなくすることで、食品とプラスチック廃棄物も削減されます。また消費者ドレッシングをカスタマイズできるこの仕組みはポジティブな一歩となっています。

インパクトをもたらす従業員

People

コンパスグループの従業員は事業の中心であり、当社のシェフと各部門のスタッフはサステナビリティに関する戦略を推進するため、世界中で人々に影響を与える変革を推進しています。

当社は、組織のあらゆるレベルにおいて多様でインクルーシブなチームを持つことを重視し、社会に存在する伝統的なジェンダー、民族、社会経済的な障壁を突破するため、従業員を支援しています。サステナブルで安全な食を幅広く提供し、より健康的な選択を推奨し、お客様のためにすばらしい体験を届けているシェフたちのリーダーシップを今後もサポートします。今年度、私たちは、人や地域社会、環境とのつながりを支援するためにグローバル料理フォーラムを立ち上げました。

インパクトをもたらす従業員

変化を生み出すシェフたち

コンパスグループ・グローバル料理フォーラム

私たちは、全事業で活躍するシニアシェフリーダーを集め、グローバル料理チャンピオングループを立ち上げました。ここでは互いの経験を共有し、サステナビリティをはじめとする重要課題に対する戦略的アプローチを話し合う会合を定期的に開催しています。これにより当社のシェフは、すべてのマーケットで互いの知識を共有し、シェフ同士のみならずクライアントにもメリットをもたらします。

過去18か月の間、グローバル料理フォーラムでは、グループの成長に不可欠な3つの重要イニシアチブに焦点を当ててきました：

人材、採用、定着

コンパスの目標は、シェフからも選ばれる企業であり続けるための戦略を策定することです。多様な人材と当社の更なる成長のため、キャリアパス、迅速な採用プロセス、継続的な研修を通して、人材の採用と定着に真摯に取り組んでいます。

サステナビリティ

当社のシェフは、サステナビリティを常に意識しながら、パッション、経験、パートナーシップを発揮し、クライアントと消費者のためにインクルーシブで地元調達の食材を使ったバランスのとれたメニューを提供しています。このフォーラムでは、食品廃棄物がクライアントの事業拠点で使用する食材を有効に活用し、食品廃棄物をアップサイクルするなどのベストプラクティスを蓄積することにより、炭素排出ネットゼロというコンパスのコミットメントを支えています。

食材の調達

当社のシェフたちは、調達チームとともに、購買活動を通してポジティブな変化をもたらすよう取り組んでいます。

Chef
APPRECIATION
week

シェフ感謝ウィーク

コンパスには20万人以上の優秀なシェフや料理専門家がいます。彼らはその才能と影響力を活かして、事業の継続的な成功、地域社会の健康とウェルビーイング、チームの専門的な発展に貢献しています。また、地元調達に関する優先順位付け、食品廃棄物との戦い、余剰食品の再分配、社会的価値の開拓、慈善活動の推進、健康とウェルビーイングの促進など、多くの取り組みを展開しています。

コンパスグループが主催するシェフ感謝ウィークは、2013年にローンチされ、世界の食品業界とホスピタリティ業界が協同し、才能あるシェフや料理チームが日々取り組んでいる素晴らしい仕事を表彰する場です。2023年9月には、サステナブルな変化を推進するシェフの功績を称えてシェフ感謝ウィークを開催しました。

この期間中、オフィス、学校、病院、防衛施設、スポーツ会場などで働くコンパスチームが集結し、日々の業務の中でやりがいもち、サービスを提供し、インスピレーションを与え続ける素晴らしいシェフたちに感謝の意を表しました。

今年のキャンペーンのテーマは「Great People Inspire Great Food（素晴らしい人々が素晴らしい料理を作り出す）」でした。世界各国20万人のシェフが作り出すクオリティの高い料理だけでなく、彼らが厨房、クライアント、より広範囲なコミュニティにおいて、食をポジティブな原動力として活用している様子にも着目しました。

そのほか、世界各国で記念イベントを開催し、コンパスシェフや第一線で活躍するチームの感動的なストーリーを、#ChefAppreciationWeekや#LoveMyChefのハッシュタグを使いソーシャルメディアでも共有しました。



インパクトをもたらす従業員（つづき）

サステナビリティの変革者たち

当社のチームは業務の中で実証可能なサステナビリティに関する取り組みを実行しており、全コンパスグループの中から成果を実現している従業員を見つけて称賛しています。こうした成果に光を当てることで、チームが互いに学び合い、組織としての影響力を高めることができます。

プラネット・プロミスの変革者たちは、当社の持続可能性の優先課題に関する取り組みの最前線に立ち、食品廃棄物の削減をリードし、おいしく革新的で地球環境に優しいメニューを開発し、また、サプライヤーと協力し、消費者の行動に影響を与えています。

LinkedIn経由で当社の変革者たちの取り組みの現状をフォローし、グループ全体で実施しているポジティブな改革の詳細をぜひご覧ください。



#planetpromise #changemaker

インパクトをもたらす従業員（つづき）

多様な人材の育成

サステナビリティの目標を達成するために、当社は多様なバックグラウンドを持つ人材を採用・定着させています。当社の従業員が地域社会や消費者の多様性をより反映することで、私たちは彼らのニーズに応え、目的の達成に近づいていくことができます。

当社は、組織のあらゆるレベルで多様でインクルーシブなチームを持つことを重視し、社会に存在する可能性のある伝統的なジェンダー、民族、社会経済的な障壁を突破するために従業員を支援することを決意しています。世界中のすべての従業員に機会を提供するために、コンパスグループ各社では、多様な人材を特定し、育成するプログラムを運営しています。

グループ全体で女性の活躍を阻むあらゆる障壁を取り除くとともに、女性人材の育成、Women in Culinary（料理界で活躍する女性たち）などのコミュニティグループやネットワークの構築などに努めています。これらのフォーラムを通して、当社は、有能な女性のキャリア開発を促進し、彼らが責任とリーダーシップのあるキャリアを構築できるよう支援しています。

コンパスUK&Iでは、障がい者をサポートする従業員ネットワーク Abilityを、すでに確立している4つのネットワークに追加しました。

- ① Women in Food
- ② Within（民族的・文化的多様性の促進）
- ③ Pride in Food（LGBTQIA+コミュニティのメンバーとその賛同者向け）
- ④ You Matter（メンタルヘルスとウェルビーイングの支援）

多様なバックグラウンドを持つ従業員を採用することは、当社グループ企業にとって大きな強みであり、世界中のコンパス事業における優先事項です。コンパスUSAでは、昨年17,000人以上がDE&Iトレーニングを修了しました。ベルギーでは、職場で互いの違いを認め合い、尊敬・尊重する企業として、ブリュッセル雇用大臣からダイバーシティ認定を受けました。オーストラリアでは、コンパスが2022年に先住民雇用指数で1位にランクされ、先住民研修プログラムを提供し続けています。これらは、コンパスが事業や地域社会の多様性を支援するために取り組んでいる事例の一部に過ぎません。

女性シェフを称賛

過去4年間、コンパスグループUSAのWomen in Culinary（WiC）プログラムは、ホスピタリティ業界における不平等と機会のギャップに対処するために、女性シェフに特化したトレーニング、リーダーシップ育成プログラム、昇進の機会を提供してきました。WiCは、キャリアの成長だけでなく、文化の変化を促進し、経営陣の連携を促進し、厨房における思いやりの心を育んでいます。2023年、WiCショーケースイベントは、コンパスグループUSAの各事業で活躍する優秀な女性シェフの功績を称える場となりました。

ミッション・ツー・ア・ミリオン

今年、UK&Iでは、ミッション・ツー・ア・ミリオンという当社の社会的宣言の一環として、ソーシャルパートナーと呼ばれるキャリアハブを立ち上げました。このハブでは、元犯罪者、介護離職者、長期失業者、障がい者など雇用市場への参入に障壁がある求職者を支援しています。カスタマイズした新たな採用プロセスでは、ハブとパートナー組織との連携により、求人と候補者をマッチングさせています。採用部門の責任者は、候補者が直面する課題を理解し、包括的かつ個別のニーズをサポートする採用プロセスを提供しています。

健康とウェルビーイングをサポート

世界中のコンパスグループでは、こころの健康（メンタルヘルス）をウェルビーイングの取り組みの中核と位置づけています。北米のコンパスグループでは、四半期ごとに開催しているヘルス・イン・ウェルスイベントの1つとして、Your Mental Health Matters（こころの健康が重要です）と称し、さまざまなラーニングコースを無料で提供しています。

カナダでは、ジャスト・ナウと名付けた取り組みで、助けが必要な従業員に幸せを感じてもらえるよう、リソースセンターを提供しています。オーストラリアでは#gotyourbackプログラムで助けが必要な人に手を差し伸べることを奨励しており、助けを求めることに対する偏見を取り除く取り組みも展開しています。これらすべての取り組みは、人材こそ最も重要な資産であり、従業員のウェルビーイングが最優先事項であるという当社の考え方を反映したものです。



コミュニティ Communities



従業員は、当社の文化と事業の中心に存在します。当社は、従業員にさまざまな機会を創出し、事業を展開する地域社会にプラスの影響を与えています。

当社の継続的な投資は、自社の価値観を共有し、提携している多くの地域生産者や小規模ベンチャーに大きな利益をもたらしています。当社は、自社のスキルとリソースを活用して、最も必要とされている場所に食料を寄付し、生活を変えることができるチャリティープロジェクトを支援し、より良い方向へ永続的な変化をもたらす社会的企業を擁護しています。さらに私たちは、地域の、特に教育、訓練、雇用の機会に恵まれない人々に、キャリア支援を行っています。

コミュニティ

ダイバーシティ・ エクイティ&インクルージョン

当社は、事業を展開する地域社会を反映し、すべての従業員に平等なキャリアアップの機会を提供したいと考えています。ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン（DE&I）は、ビジネスにおける必須項目であり、当社は、第一線で働く従業員からグループのリーダーまで、すべての人を支援し、思いやりのある環境を構築する役割を担っています。DE&Iは、当社にとってだけでなく、クライアントにとってもますます重要になっています。

インクルージョンをすべての人という当社のコミットメントの一環として、グループ企業は多くのDE&Iイベントを主催し、リバース・メンタリング制度を導入し、さまざまなトレーニングを提供しています。組織のあらゆるレベルで多様な労働力の構築、維持、サポートに取り組むことで、消費者やコミュニティの多様性をより反映させることができます。

また、より多様かつ公平でインクルーシブなサプライヤー基盤を構築しています。2023年から、より詳細なサプライヤーの多様性データをグループ全体において収集し始めました。このデータによって、私たちが影響を与えられる分野を特定することが容易になりました。同年には、DE&Iの定義を満たすサプライヤーと、全世界で10億ドル以上の取引を行いました。この支出額の規模が、当社の影響の大きさを示しています。当社は現在、自社が参入する市場をさらにサポートするために、DE&I支出を促進するためのフレームワークを本格展開しています。このフレームワークでは、以下の3つのタイプのサプライヤーエンゲージメントに焦点を当てています：サプライヤーの特定、機会の創出、成長の支援。当社は、このフレームワークに基づいたサプライヤーDE&Iワークショップを2023年11月に欧州および中東地域の各国で開始し、現在も国別チームとともに運営しています。

また、それぞれの国に焦点を当てたパートナーシップを結んでいます。例えば、当社の米国事業ではDisability:INとの新たなパートナーシップを開始しました。オーストラリアの事業は、先住民コミュニティを支援するKARI Foundation、退役軍人を支援するSoldier Onと協力しています。これらの組織は、多様なサプライヤーのさらなる特定と支援に役立っています。当社のビジョンに沿って、パートナーと共に、各国のチームをサポートするためのDE&Iトレーニングを提供しました。

2021年、米国事業では、Foodbuyサプライヤー多様化プログラムを立ち上げ、年間10社のサプライヤーとのメンターシッププログラムを開始しました。Foodbuyの担当者はプログラムに参加するサプライヤーに幅広いサービスと追加リソースを提供しており、それが良い結果をもたらしています。2022年は、2023年のコンパスの売上が前年で比43%増加しました。また、Foodbuyを通じた小規模サプライヤーとの連携や支援の手段を探る上でも役立ちました。Foodbuyは、サプライヤーごとに料理チャンピオンを任命しサプライヤーがビジネスを拡大する機会を増やしました。

インクルージョンをすべての人という当社のコミットメントの一環として、グループ企業は多くのDE&Iイベントを主催し、リバース・メンタリング制度を導入し、さまざまなトレーニングを提供しています。

食糧貧困層への寄付・支援

コンパスグループは、各マーケットの食品回収パートナーと連携し、食糧貧困層の人々へ食料を届けられるよう取り組んでいます。地域のフードバンクや食料配給所への支援から、子ども支援プログラムへの参加まで、幅広い寄付活動を通して支援しています。

例えば、食品回収パートナーの1つであるFood Fleetは移動式食品プロバイダーおよび管理会社として運営しており、当社のハワイにおける事業と連携しています。この1年間、Food FleetはThe Wave FoundationやWe Do Better Reliefとも協力し、サプライヤー、バンダー、シェフとともに、山火事で深刻な影響を受けたマウイのコミュニティを支援しました。

従業員による食糧レスキュー活動を奨励し、支援するために、当社は多様なツールを開発しています。例えば、食品廃棄削減技術を使い、厨房の余剰食品を可視化し、地域社会への寄付の機会を見つけられます。昨年は、多様なマーケットの地域社会に160万食を寄付しました。コンパスUSAは、米国全土で展開する食品レスキューを主な活動とする団体CAEit、Food Rescue Heroを含む、新しいパートナーとコラボレーションし、長きにわたってパートナーであるFeeding America、Chefs to End Hunger、Goodr、Food Rescue US、City Harvestとも良好な関係を継続しています。コンパスUK&Iは、寄付パートナーのOlio、FareShare、Too Good To Go、地元の慈善団体などを通して寄付を継続しています。

当社は、今後も食品廃棄物を削減し、食品寄付を通して地域社会に貢献していきます。



160万食

チャリティ団体に寄付した食数

コミュニティ(つづき)

コンパスグループ財団：
コミュニティに変化を与える

2023年1月に設立したコンパスグループ財団では、コンパスグループが事業を展開する国々のチャリティーパートナーに資金を提供しています。財団は、不利な立場にあるグループの人々に、食品およびホスピタリティ業界内の雇用機会へのアクセスを提供するとともに、食品サプライチェーンにおける地元および中小企業（SMEs）を支援しています。これらのボランティアや共同出資、その他の寄付を通し、コンパスグループは財団の影響を拡大しています。

2023年には、以下の8か国で14の案件に資金を提供しました：英国、米国、インド、トルコ、スペイン、スウェーデン、オーストラリア、フランス。また、トルコとシリアにおける地震発生後の人道的活動を支援するための寄付も行いました。初年度の成果として、2,800人以上の人々が恩恵を受けました。

小規模事業者のための食品事業への参入障壁の排除
(英国)

財団は、KERB+と協力して無料または手頃な価格のキッチンカー設備を提供することにより、食品ビジネスの立ち上げを支援するLOFTを展開しています。設備や立ち上げ費用は、特に社会的少数派に属するグループの起業家にとって参入の大きな障壁となっています。LOFTはKERB+メンバーにアクセスを提供することで、この問題に対応しています。2023年3月には、難民の起業家を支援するKERB+のキッチンカーマーケット全体で、8件の新企業がLOFTから調達した機材を使用して事業を立ち上げました。

 **14**
8か国で
寄付した団体数

 **2,800人**
受益者数¹

 **8,400人**
コンパスグループ従業員の
ボランティア活動時間



COMPASS GROUP
FOUNDATION

1. これまでの成果を報告するチャリティーパートナーの直接的および間接的な受益者を含む。

給食・ホスピタリティ業界でダウン症の人々が
活躍するための支援 (トルコ)

コンパスグループ財団は、トルコダウン症協会と連携してEverybody Belongsのプロジェクトを推進しています。この取り組みは、ダウン症の人々を訓練して雇用するとともに、さまざまな企業の従業員を支援者やジョブコーチとして教育・訓練することで、働く彼らの貢献に対する認識を高めています。

職業訓練を通した障害のある人々のエンパワーメント
(インド)

当財団は、Sai Swayam Societyと協力して、言語と聴覚に障がいのある若者の雇用機会を拡大させています。このプロジェクトでは、ホスピタリティと情報技術に関する質の高いトレーニングを提供するとともに、手話を介して生活とソフトスキルを育成しています。コンパスグループ・インドのボランティアスタッフは、トレーニング活動を提供し、参加者が新たに習得したスキルを活用できるように雇用機会を見つける支援を行っています。インドで資金提供を行ったもう1つのプロジェクトは、バンガロールにおけるUnnatiの職業訓練と社会変革プログラムです。財団からの助成金により実践的な集中トレーニングを提供し、極めて経済的水準が低い若者への就職あっせんなども行っています。

パートナーシップとボランティアによるインパクトの
拡大

グループ全体のパートナーシップとボランティア活動の機会を当財団は奨励しています。当社の従業員は、これまでに8,400時間以上のボランティア活動に貢献してきました。英国の例としては、慈善団体FoodCycleとの取り組みがあります。当財団からの助成金でFoodCycleのボランティアのトレーニングと能力開発を支援し、余った食材を使って地域社会に栄養価の高い食事を提供しています。コンパスUK&Iの従業員（シェフを含む）は、全国のFoodCycleの現場を訪問し、地域の食事の提供を支援し、ボランティアのトレーニングも行っています。

また、先住民の健康促進に関する研究の全国的リーダーであり、オーストラリア先住民とその他の健康とウェルビーイングの格差をなくすための取り組みを展開しているオーストラリアのMenzies School of Health Researchにも助成金を提供しています。この助成金は、栄養飢餓プログラムの開発に使用されます。このプログラムでは、アボリジニとトレス海峡諸島の島民コミュニティおよびその指導者と協力して、栄養飢餓と闘うプログラムの主な目的に貢献する料理教育、栄養摂取促進活動、健康とウェルネスに関する取り組みを行っています。コンパスグループ・オーストラリアの栄養士、調理チーム、Foodbuyのサプライヤーは、それぞれのスキル、専門知識、ネットワークを活用して、これらのコミュニティに変革をもたらしています。

サステナブルな調達

Procurement

当社は、調達活動を通して、地球と私たちのコミュニティに良い影響を与えるよう取り組んでいます。例えば、地産地消品の調達、インクルーシブで多様な取引先基盤の構築、再生農業の支援、人権の保護、倫理的貿易の促進などがあります。これらはすべて、当社のブランド強化と、ビジネスの戦略的柱となっています。アニマルウェルフェアとパーム油に関するコミットメントと併せて、これらは当社のサステナビリティを推進し、常に前向きな変化をもたらしています。

サステナブルな調達

サプライヤーとの緊密な連携

サプライチェーンの複雑さは課題と機会の両方をもたらします。この複雑さに対処するには、サプライチェーン全体のパートナーシップの強さが必要不可欠です。コンパスでは、サステナビリティの目標を達成するには一企業ではなく業界全体での取り組みが必要であると考えています。当社は、グループ企業が主催する定期的なサプライヤー会合などの場を通してサプライヤーやパートナー各社と直接対話することにより、協力と責任を共有するネットワークの構築を目指しています。

今年英国で開催したFoodbuyサプライヤー会合では、倫理と誠実さが重要なテーマとなりました。日本では、サプライチェーンのリスクプロセスとSedexなどのツールについて、イベントで議論を行いました。また、サプライチェーンのリスクマッピングの結果をサプライヤーと共有し、リスク領域を特定し、リスク軽減対策とその実施方法について議論しました。

当社のカーボンコミットメントは、サプライヤーと協働してこそ達成されます。スコープ3最大の排出源は、サプライヤーから購入する食品です。2023年5月と11月には、米国で調達企業のFoodbuyによるFuture Forwardミーティングが開催されました。このミーティングを通して、コンパスUSとFoodbuyのリーダーは、サプライチェーン内のサステナビリティの未来について、サプライヤーパートナー17社（22億ドル相当）と連携することができました。主なサプライヤー各社が、農場から包装・流通までの食品の温室効果ガス排出量を削減するための戦略に関する最新情報を発表し、Foodbuy Hospitalityの経営陣も実務的な観点からの意見を交換しました。

英国における事業では、すべてのサプライヤーに対して、契約開始日から12か月以内にSBTを設定するよう義務付けています。



サステナブルな調達（つづき）

倫理的で持続可能なサプライチェーンの構築

当社グループ事業のサプライチェーンは、世界中の生産者、製造業者、卸売業者、流通業者の巨大なネットワークで構成されています。当社は、SCRM（サプライチェーンリスク管理）委員会を立ち上げ、サプライチェーンにおけるビジネスの健全性、人権、環境リスクの特定と軽減のためのリスクベースのアプローチを構築しました。また、新たな第三者倫理審査プロセスを10か国で導入しました。当社は、このプロセスを確実に浸透させるため、トレーニングなどに引き続き投資します。

2022年に制定したSCOC（グローバルサプライヤー行動規範）は、サプライヤーとの契約上遵守要件です。この規範は、ビジネスにおけるあらゆる分野の原則を示し、また、当社グループ企業がサプライチェーンのパートナーに対して遵守を求める原則、期待、行動を示しています。

更なるSedex導入の拡大

当社グループ企業は、サプライヤーとサプライヤーから購入した商品やサービスの可視性と透明性を高めるために複数ツールとシステムを活用しています。Sedexは、この点に関して価値あるソリューションを提供し続けており、当社グループ企業の各国サプライヤーとのネットワークにおいて独自の窓口を提供しています。Sedexの監査方法およびプロセスにより、当社グループ企業は、サプライチェーン内の固有のリスクを詳細に把握できます。同時に、地域レベルでサプライヤーの倫理慣行に関するデータと知見をSMETA（Sedex会員の倫理的取引監査）の社会・環境監査を通して提供することもできます。人権、労働慣行、安全および環境基準に関連するコンプライアンス違反とグッドプラクティスを特定するSMETAのデータは、正確かつ迅速に問題に対処するために活用されています。この1年、グループ企業全体でSedexの導入拡大に投資しました。Sedexは現在、14か国（売上高の上位10か国すべてを含む）で導入されており、54の生産国にまたがる1,247のサプライヤーの事業所で監査業務を行い、65万人を超える生産者をカバーしています。

また、当社は購買部とその取引先サプライヤーにし、SCRM（サプライチェーン・リスクマネジメント）、労働者保護、サステナブルな活動の観点から、Sedexをより活用するための研修を実施しました。過去12か月の間、当社グループ全体で、Sedex登録600社以上のSMETA監査の報告を利用しました。

これらの監査報告の内容は、当社の方針や基準に照らし、購買部による調達戦略、サプライヤーの選定、オンボーディング、および定期的なサプライヤーレビューと契約更新などに役立っています。当社の購買部は、SMETAの監査結果について、必要に応じ、サプライヤーのコンプライアンス違反事項、是正施策、およびフォローアップ監査の内容まで踏み込み、サプライヤーと協議してきました。

今後も、リスクベースのアプローチを基に、当社のグループ各社へのSedexの利用を推奨するとともに、そのメリットについて当社従業員とサプライヤーの双方に対する啓蒙を続けていきます。また、SedexツールをSCRM活動、調達、第三者倫理審査プロセスにおいても採用していきます。Sedexの運用は、当社グループのサプライチェーンにおける労働条件の改善など、確実なプラスの影響をもたらすことができると信じています。

Sedexの運用事例

コンパス・オーストラリアは今年、Sedexを使い、主に高リスクのティア1のサプライヤーを監査しました。具体的には、サプライヤーのリスクプロファイル、現代奴隷法に係る声明、および現代奴隷法のリスクへの対応施策の評価と、第三者機関による監査を実施しました。

コンパス・オーストラリアのこのような取り組みは、Sedex導入のメリットや特典の説明を通し、現代奴隷法に対するサプライヤーのガバナンスを強化する機会につながっています。今後取引先となり得るサプライヤーのSMETA監査結果を精査し、購買部、コンプライアンス違反が懸念される事項を明らかにして、オンボーディングプロセスを開始する前にそれらを排除することをSedex経由で要求できるようになりました。

パートナーシップ

Earthworm FoundationやSlave-Free Allianceとのパートナーシップ、ならびにCoalition of Immokalee Workers' Fair Food Program（イモカリー労働者公正食品プログラム連合）と連携した米国事業に特化した取り組みは、倫理的かつサステナブルな活動に対する当社のコミットメントの一部です。

Earthworm Foundationは、当社がサプライチェーンに内在する環境・社会リスクを軽減する上で重要な役割を果たしています。さまざまなプロジェクトでの協働は、サプライチェーンの可視性の向上に役立っています。このパートナーシップは、特にリスクの高い商品の責任ある調達を推進する上で必要不可欠です。

また、Slave-Free Allianceとの連携を通して、当社は、現代奴隷法関連のリスクを特定、回避、未然防止するためのツールを活用し、従業員と購買担当者の研修を実施しています。

当社はしばしば、これらの団体を招き、コンパスグループの20か国以上の代表者で構成する、ヒューマンライツ（人権）・ワーキング・グループにおいて、知見や専門知識、ベストプラクティスを共有しています。

この1年で、14か国でSedexの運用拡大のために投資しました

Earthworm Foundation のリスクマッピング・プロジェクト

この1年、サプライチェーンの可視性を高める取り組みの一環として、さまざまな原材料の責任ある調達への移行を支援するため企業との共同活動を専門とする非営利団体Earthworm Foundationと連携しました。プロジェクトの当初の目的は次の通りでした：

- コンパスの英米市場向けトマトとツナ缶のサプライチェーンに内在する社会的・環境的リスクをより深く理解する
- サプライチェーンマッピングの詳細を学びながら、私たちのデューデリジェンスの方法と原材料に対する責任ある調達についてさらに情報を開示する

このプロジェクトでは、トマトとツナ缶の生産過程に潜む複数のリスクに注目しました。労働環境から、原産国の規制や船籍による複雑な調達構造まで、さまざまなリスクがあります。これらのリスクを認識することで、英国と米国の購買部は、この2つの商品のデューデリジェンスを強化しました。このプロジェクトの成果により、特定されたリスクに対する軽減措置を取ることができました：

- コンパスの各地域の購買部を対象に、トマトやツナ缶の仕入れ元サプライヤーとより良く連携するための研修を実施しました
- 当社の米国事業では、Fair Food Programが認証するトマトの調達量を増やし、サプライヤーエンゲージメントプログラムを継続しています
- 英米のグループ企業では現在、トマトに限らず魚介類を含む生鮮食品の国際展開を視野に入れながら、2009年に始まった長期的なパートナー団体、Coalition of Immokalee Workers' Fair Food ProgramとFair Food Programに対するさらなる支援方法について協議を行っています
- トルコが高リスク原産国となる可能性があったため、現地の購買部は、プロジェクトの内容を彼らの主要取引先
- トマト生産者と共有した結果、具体的なアクションを実行することを約束しました。この目的は、ベストプラクティスをトルコの他の生産者にも拡大し、よりサステナブルな生産を促進しながらトマト生産者に長期的にプラスの影響を及ぼすことです

コンパスグループはEarthworm Foundationとのパートナーシップを2024年も継続し、対象地域と商品項目を拡大する予定です。

サステナブルな調達（つづき）

サプライチェーン全体の アニマルウェルフェアの向上

当社のアニマルウェルフェアのアジェンダには、動物の自由に関する以下の5項目が含まれています：飢えや渇きからの自由、痛み、負傷、病気からの自由、恐怖や抑圧からの自由、不快からの自由、本来の行動をする自由。当社は、事業を展開する国や調達を行う国において、すべてのアニマルウェルフェアを監視し、特定の課題に対処するためにより多くの投資や理解が必要な分野を継続的に注視しています。

この1年間、当社は、アニマルウェルフェアに関する透明性を高め、最新情報と事例研究を共有してきました。例えば、当社のケージフリーエッグの調達状況が肯定的に評価され、Mercy For Animalsの国際ケージフリー株式指数の上位にランクインしました。鳥インフルエンザや供給不足などの逆風にもかかわらず、当社は引き続きケージフリーエッグへの取り組みを推進しています。当社は、複数のNGOパートナーやサプライヤーと協力してコミットメントの達成に必要な枠組みを構築しています。また、この取り組みを加速するための革新的な購買方法も模索しています。

価値ある変化を起こすには、バリューチェーン全体でのコラボレーションが不可欠です。そのため、当社はサプライヤー、パートナー、業界団体や主な動物福祉団体（Compassion in World Farming、Global Food Partners、Humane Society Internationalなど）と連携して、アニマルウェルフェアの基準とアプローチを継続的に研究、開発、強化しています。当社は、The Global Coalition for Animal Welfare（GCAW）の設立メンバーとして、他の主要な国際食品会社と協力しています。この連携を通して、当社は体系的な障壁に対処し、ベストプラクティスを共有し、アニマルウェルフェアに関する主な課題解決の進展を、速いペースで実現しています。コンパスは、バリューチェーンに携わる主な企業と連携し、自社の影響力を活用することで、構造変革を推進できると考えています。

当社は、従業員が影響ある変革を推進するための知識を身につけるため、社内研修を定期的に実施しています。例えば、2023年11月には、EME地域のグループ企業向けにアニマルウェルフェア研修を実施しました。その内容をサプライヤーと共有しています。



67%

総仕入れ量に占める
ケージフリーエッグ
液状卵の割合
目標—2025年までに
100%



32%

総仕入れ量に占める
ケージフリーエッグ
殻付き卵の割合
目標—2025年までに
100%



53%

総支出に占める
サステナブル・
シーフードの割合
目標—50%



サステナブルな調達（つづき）

森林破壊防止に向けた啓蒙

食糧生産のための農業拡大は、世界的な森林破壊の主な原因となっています。森林破壊防止のための取り組みは食品業界の優先課題の一つです。ブラネット・プロミスの一環として、当社は、森林破壊や土地転換のないグローバルサプライチェーンの構築に取り組んでいます。当社は、SBTiによって発行された新しい森林・土地・農業（FLAG）ガイダンスに沿って事業を展開しています。

コンパスUK&Iはすでに、2025年までに森林破壊に関連する商品の直接調達を廃止することを誓約しています。これを達成するため、コンパスUK&Iは、事業全体にわたる農業拡大の影響についての認識を高め、サプライチェーンの中で最も重要な農業・森林リスクを抱えた商品に焦点を当てることを優先しています。

パーム油は、世界で最も生産、消費、取引されている植物油です。パーム油生産のための無責任な農地開墾は、広範囲に及ぶ熱帯雨林とその生物多様性の破壊につながります。コンパスグループでは、使用する食用油やマーガリンに含まれるパーム油の100%がサステナブルな油としての認証を取得することをグローバル目標としています。サプライチェーンの制約を受ける中、当社は2023年にグループ全体で95%を達成しました。当社は、引き続きRoundtable on Sustainable Palm Oil（RSPO）のクレジットを購入し、目標達成に向けて、未認証油の仕入れ量を相殺し続けます。



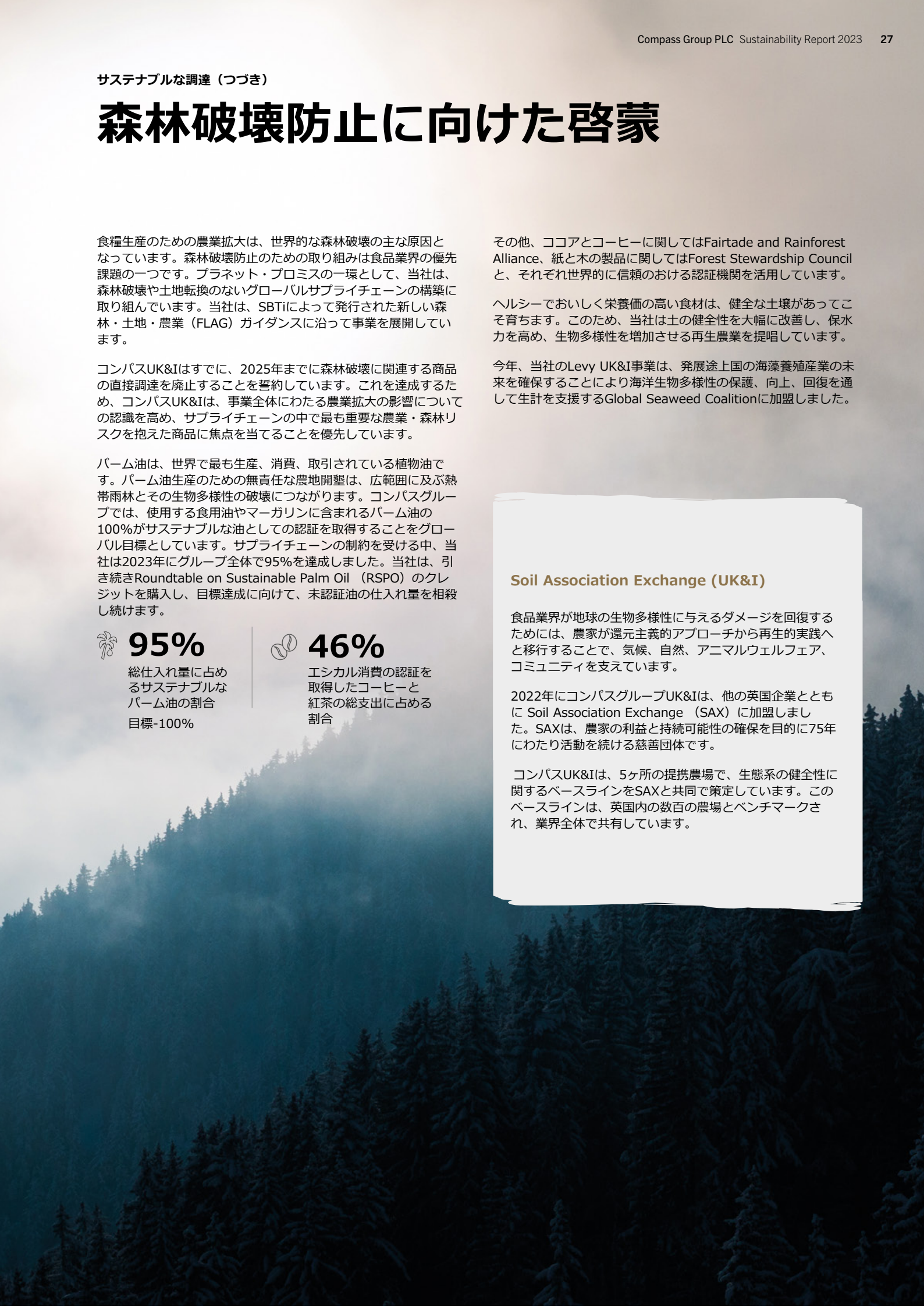
95%

総仕入れ量に占める
サステナブルな
パーム油の割合
目標-100%



46%

エシカル消費の認証を
取得したコーヒーと
紅茶の総支出に占める
割合



Soil Association Exchange (UK&I)

食品業界が地球の生物多様性に与えるダメージを回復するためには、農家が還元主義的アプローチから再生的実践へと移行することで、気候、自然、アニマルウェルフェア、コミュニティを支えています。

2022年にコンパスグループUK&Iは、他の英国企業とともに Soil Association Exchange（SAX）に加盟しました。SAXは、農家の利益と持続可能性の確保を目的に75年にわたり活動を続ける慈善団体です。

コンパスUK&Iは、5ヶ所の提携農場で、生態系の健全性に関するベースラインをSAXと共同で策定しています。このベースラインは、英国内の数百の農場とベンチマークされ、業界全体で共有しています。

サステナブルな調達（つづき）

地産地消を通して地域社会を支援し、 フードマイルを削減

地域のサプライヤーから仕入れることは、当社が事業を展開している地域社会を支援できるポジティブな手段であると同時に、フードマイルの削減などサステナビリティ目標の達成にも貢献します。当社が参入する市場の多くでは、当社事業所周辺の精肉店やベーカリーなどから仕入れることも一般的です。多様で公平かつインクルーシブなサプライヤー基盤の構築に向けた取り組みとして、パートナーや地方自治体とも協力しながら、サプライヤーが新たなビジネスを軌道に乗せるための支援を行っています。

中東における事業では、アラブ首長国連邦の気候変動環境省による、食糧安全保障のためのタスクフォース（Taskforce for the National Dialogue for Food Security）と連携し、肉、鶏肉、魚介類、卵、乳製品、果物や野菜などの購入を通して現地農家を支えています。この支援は、輸入品に頼らず、地域農業を強化するとともに、二酸化炭素の排出量を削減するための政府のサステナビリティ戦略にも寄与しています。

当社はさらに、サプライヤーだけではなく、地元の飲食店やフードトラックにも食事を提供しています。その代表例が、米国のFood Works事業です。2018年に創設されたFood Worksは、全米各地のレストランやフードトラックの食事を、当社グループ企業がサービス提供するオフィスに届けています。現在、Food Worksは450社以上の中小企業と提携し、それら企業にメンター制度や研修も提供しています。さらにFood WorksでIGNITEプログラム（地域社会助成プログラム）を立ち上げ、提携先のレストランへの財政支援を行っています。

Common Market とのパートナーシップ

Morrison Healthcareは、非営利団体The Common Marketと協力して、都市部のコミュニティに家族経営のサステナブル農場で収穫された農産物を届けています。

The Common Marketの共同創設者であるHaile Johnston氏は言います。「私たちの活動は基本的な原則に基づいています。良質で手頃な価格の食料供給のために、農家の人々に正当な対価を支払い、公平さを保つべきです。環境に優しい農業と、サステナブルかつ健全な農法で栽培された食材は癒しにもなります」。

米国のHackensack Meridian Healthのチームは、同社が運営する全拠点で、地域の農家をはじめ、BIPOC（黒人、先住民、有色人種）の生産者との取引を積極的に増やすこととしました。その結果、運営拠点の患者、スタッフ、ゲストへの地産地消の食材提供が可能になりました。Hackensack Meridian Healthのサステナビリティを担当するKyle Tafuri氏は話します。「シェフたちは、The Common Marketと緊密に連携することにより、食材の調達からプラントフォワードメニューの提供まで、地域農場との関係を築き、サステナブル調達目標達成に近づくことができます」。

また、Morrison Healthcareでサステナビリティとウェルネスを担当するNational DirectorのLisa Roberson氏はこう語ります。「農家への一定規模の投を機に、ヘルスケア業界と非営利団体が協力し、公平でサステナブルな取り組みを支援する手段が見えてきました」。

さらに、5つの病院システムがMorrison Healthcareと連携し、The Common Marketとのパートナーシップを活用して、地域およびBIPOCが所有する農場や生産者との関係を構築しています。



ガバナンス Governance

当社のポリシー、システム、管理および倫理的慣習により、お客様、従業員、ならびに地球をより良くサポートすることができます。また、当社の価値観に賛同する投資家やクライアントを巻き込むことによりビジネスにも利益をもたらします。

当社はサステナビリティに関するガバナンス構造を確立しており、主なリスクとそのモニタリング状況を効果的に管理しています。当社の企業責任委員会は、KPIと温室効果ガス排出目標を確実に達成するため、ネットゼロに対するコミットメントに代表される戦略の策定と進捗を監督しています。

また、高い倫理と誠実さの基準を保つ当社のガバナンス慣習は、グローバルリーダーおよび信頼されるパートナーとしての地位を確立した原動力となっています。人権を尊重する目的を持って、サプライチェーンにおける現代奴隷制のリスクを根絶するため、当社が今年実行した施策の詳細については以下のページをご覧ください。

気候変動の影響を最小限にするためには、当社の事業、クライアント、戦略が与える影響を予測・分析し、把握しなければなりません。そのため、今年はTCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）におけるシナリオ分析を大幅に拡充し、今後もプロセスを展開していく予定です。また、2種類（5億ユーロと2億5000万ポンド）のサステナビリティボンドを発行し、調達した資金を持ってサステナビリティ施策を推進し、グローバル規模でネットゼロ目標を達成するために企業価値をさらに向上させました。

倫理と誠実さ

正しく行動する

コンパスグループは、価値観を大切にしている企業であり、その中心には従業員がいます。当社は、従業員が声を上げ、その声を聞いてもらえると実感できる職場づくりを推進しています。この環境を構築するため、当社は、従業員が常に正しく行動するよう奨励し、率直さ、信頼、誠実さの文化を引き続き育成していきます。

当社は、従業員とビジネスパートナーが誠実さを指針として意思決定を下すことを目標としています。当社は、企業行動規範（CBC）、人権ポリシー、SCOC、およびビジネス・インテグリティ・ポリシー（BIP）（総じて「方針」）の継続的な実践を通して、従業員、パートナー、ステークホルダーの権利を尊重する取り組みを続けています。

当社のCBCおよび方針は、以下の国際的宣言、基準および原則に基づいています：

- 国連世界人権宣言
- 国際労働機関（ILO）およびエシカル・トレーディング・イニシアチブのベースコードが定める基本規約
- OECD多国籍企業ガイドライン
- IOECD多国籍企業ガイドライン
- 国際人権法案
- ビジネスと人権に関する国連指導原則T
- 国連グローバル・コンパクトの10原則

当社のCBCおよび方針は、全世界のグループ企業の全従業員に適用されます。

2023年には、コンパスのCBCは、倫理規定と統合した上で、当社の戦略的優先事項と大幅な規制変更にも対応するよう改訂されました。新しいCBCは、当社の価値観と企業のコミットメントを含めた枠組みとルールを、明示しています。CBCは、当社グループ企業で使用されるすべての言語に対応しています。

当社の従業員、パートナー、投資家との相互信頼を築くことは当社の継続的な発展につながり、その成功は、従業員一人ひとりが責任を持って行動することにかかっています。サプライヤーには、CBCの基準と原則を満たし、SCOCを遵守することが求められます。

BIPの戦略的目的は、重大なビジネスインテグリティのリスクを防止・軽減することと、従業員が倫理的ジレンマに直面した時に規制要件に遵守することです。

これにより、従業員は問題に適切に対応し、期待される行動と基準を示すことができます。

当社のBIPは、企業の倫理と誠実性（E&I）の文化と、主なコントロールが含まれた枠組みをさらに強固なものとしします。

誠実さに基づく判断をすることは、研修や啓蒙キャンペーン、経営トップから発信されるメッセージを通して推奨・促進されます。また、物事が適切でないと感じたときに発言する際の心理的安心感も醸成されます。

当社は、ピープル部門（人権を含む）、サステナビリティ、サプライチェーン、グループ倫理・誠実性の各チームの専門家の協力を得て、グローバルなSCRM（サプライチェーンリスク管理）の枠組みを構築し、第三者デューデリジェンスのプロセスを強化し、パートナーであるサプライヤーとの倫理的な適合性を評価し、継続的に見直しています。2024年度は、各国にSCRMのプロセスを組み込みます。

詳細については、2023年の年次報告書、倫理と誠実さの概要、現代奴隷法に関する声明に関するウェブサイトの各セクションをご参照ください。www.compass-group.com



18,000人

倫理と誠実さの原則およびリスク領域に関するトレーニングを受講した従業員数



87%

適切でないと感じる状況を目撃した場合に声を上げると回答した受講者の割合



82%

職場において誠実さを重視した意思決定がなされていると回答した受講者の割合



100,000+

2023年に39か国で実施された倫理・誠実性キャンペーンにした従業員数



6,500人

倫理・誠実性アンバサダーに任命された従業員数

SPEAK UP!
We're listening

当社は、何かがおかしいと感じた場合に、従業員が安心して発言できる包括的な環境の整備に取り組んでいます。コンパスの全従業員には、声を上げた人に耳を傾け、フォローすることで正しい行いを実践する義務と責任があります。これについては、ウェブサイトですらに詳しく説明しています。
www.compassgroup.com/en/who-we-are/corporate-governance/policies

秘密厳守の報告および内部告発制度、スピークアップ・ウィーアリスニングは、当社が事業を展開するすべての国において、報告者が希望する言語で365日誰でも利用可能です。この制度は、コンパスグループの倫理・誠実性部門によって、従業員が潜在的な不正行為の懸念や申し立てを提起する権限を保てるよう管理されています。

従業員、サプライヤー、お客様、地域社会、コンパスのビジネスに関わるすべての人は、報復を恐れずに、潜在的な不正行為やその他の不適切な状況や行動（CBCおよびBIPと矛盾するものを含む）について報告することができます。内容には、健康、安全および環境、ハラスメント、人権、贈収賄および汚職、反競争的行動、窃盗および詐欺、財務またはその他の不正報告など、あらゆる懸念を含みます。

各案件について、専任担当者が評価、フォローアップ、必要に応じて調査し、その進捗は取締役会、監査、CR、各地域のガバナンス委員会に定期的に報告されます。

2023年には、4,130件の懸念案件がスピークアップ・ウィーアリスニングに報告されました（2022年：3,176件）。

4,130

スピークアップ・ウィーアリスニングに報告された懸念案件

2,814

倫理に関する懸念案件

132

健康・安全・サステナビリティに関する懸念案件

54件（42％）の懸念案件が裏付けられ、プロセスの見直しとチームの研修/コーチングが実施されました。

職場の安全

品質管理

薬物濫用

健康とウェルビーイング

132案件の上位4類型



人権

人権の尊重

当社は、グループ内のすべての従業員、サプライチェーン内の全従業員、事業活動を行う地域社会の人権を尊重することの重要性と責任を認識しています。

人権を擁護するという当社のコミットメントは、単なるコンプライアンス事項として捉えるのではなく、世界における人権向上活動に積極的に影響を与える事を目指しています。

コンパス傘下の関連会社は、人権の尊重が相互の責任であることを認識した上で、最高水準の倫理基準と原則を遵守することが求められます。この内容は、先ごろ改訂された人権ポリシーにも含まれています。

当社の人権ポリシーには、すべての人の基本的人権と自由の権利を有するという当社の確固たる理念が組み込まれています。この理念は、女性、LGBTQI+、子ども、難民、移民労働者、少数民族、高齢者、障がい者、先住民族などの弱い立場に置かれたグループにも適用されます。

さらに、この人権ポリシーにおいては、さまざまな国際人権基準、特にILOの4分野（結社の自由、団体交渉権、強制労働の廃止、児童労働の撤廃、雇用および職業における差別の排除）へのコミットメントを明確に示しています。

人権は、コンパスの基本的優先事項です。この1年で、当社グループが事業を展開する多様かつ複雑な環境において、人権リスクに対する意識と理解が大きく向上しました。全社を挙げた取り組みには、潜在的なリスクを軽減し、人権活動の推進を目的としたプロセス、研修、ポリシーの確立と改善などがあります。

現代奴隷制に関するアクション

当社は、当社の規模を活用し、現代奴隷制の根絶に向けた活動に取り組みながら、真の変化をもたらすことを目指しています。2023年もまた、前例のない世界的な紛争の年であり、長期にわたる社会的・地政学的な不確定要因から人身売買や強制労働、奴隷労働、児童労働のリスクが著しく増大し、あらゆる形態の現代奴隷制を根絶する重要性が高まりました。

今年、当社はこの目標に向けて多くの措置を講じてきました。その中には、グループの人権ポリシーの理解度を深めるために社内で開催したオンライン研修プログラム Striving for a more equitable world（より公平な世界のための取り組み）の立ち上げや、強制労働、児童労働、差別などを絶対許さないゼロトレランスのアプローチがあります。報告時点で、1万1000人以上の従業員が研修プログラムを受講しました。また、現代奴隷制の分野では、その他に以下のような活動とプロジェクトを実施しました：

- Sedexの拡充
- 第三者倫理審査の導入
- Earthworm Foundationとのリスクマッピングプロジェクトから得た学びの共有
- 中東における移民労働者の採用強化

人権ポリシーと現代奴隷法声明を含む人権に対する当社の詳しいアプローチについては、ウェブサイトをご参照ください。
www.compass-group.com/en/sustainability/people/human-rightsandethical-trade

1万1000人以上の従業員が
研修プログラムを受講しました。
(報告時時点)



パートナー

私たちの戦略的パートナーシップは、私たちをより強くします。最も影響力のある変化を生み出すために、私たちは主要な業界団体、NGO、政府、その他の世界的な組織と協力して、食品に関連する社会や環境への影響に取り組んでいます



2004年以降、私たちは国連グローバル・コンパクトに取り組んでいます。



私たちは責任ある大豆に関する円卓会議のメンバーです。



当社は、持続可能な開発のための世界経済人会議の加盟機関となりました。2021年にビジョン2050：転換の時代に署名しました。



世界水産物持続可能性イニシアチブのファンディング・パートナーです。



コンパスは、2020年にFoodtankとのパートナーシップを開始しました。



私たちは、世界動物福祉連合（GCAW）の創設メンバーです。



EATフォーラムのパートナーとしての活動にも引き続き注力します。同フォーラムは、地球とその資源の保護に向けた変革に取り組む非営利団体です。



2021年6月、スレーブフリー・アライアンスに加盟しました



持続可能なパーム油のための円卓会議のメンバーとして活動しています。



2022年9月には、国際食料廃棄連合（IFWC）に参画し、当社のサステナビリティディレクターが理事会に加わり、食品廃棄に対する取り組みを強化しました。



食品廃棄物の撲滅に取り組む米国の非営利団体 ReFEDと提携しています。



私たちはコンパッションインワールドファーミング（CIWF）と緊密に連携し、トレーニング、業界エンゲージメント、アドボカシーなどの活動を展開しています。



私たちは全世界のスレーブフリーの取締役会および幹部会におけるすべての女性の代表を通してジェンダー平等を創出することを目的とする30%クラブをサポートしています。



私たちはビジネスリーダーシップと機会の創出を通して、障がい者インクルージョンに革命を起こすことを支援します。

サステナビリティボンドに関する報告

サステナビリティボンドに関する報告

2022年9月、コンパスグループは2種類のサステナビリティボンドを発行し、それぞれ5億ユーロと2億5000万ポンドを調達しました。今回の社債発行は、2022年7月に発足したコンパスグループPLCの持続可能な金融フレームワーク（以下フレームワーク）の公表を受けたものです。このフレームワークは、カーボントラストからのセカンド・パーティー・オピニオン・レビュー（第三者評価）の対象となっています。評価内容と報告書は当社ウェブサイトでご覧いただけます。

www.compass-group.com/en/investors/debt- investors/sustainable-financing

フレームワークの規定に沿った調達の配分先となるプロジェクトには、以下のものが含まれます：

- 認証されたサステナブル、フェアトレード、オーガニック商品への支出
- 域社会的に多様な、またはマイノリティのサプライヤーが提供する商品への支出
- 電気自動車導入、再生可能エネルギーの利用、植物由来食品の利用促進、再生農業への投資などコンパスグループのネットゼロへの取り組みを支援するための支出
- 測定システム導入などの食品廃棄物削減プロジェクト
- プラスチックごみ削減や再利用可能品目の活用促進プロジェクト
- 事業所内研修、ラベリング、スタッフトレーニングを含むヘルシーな食事を推奨する取り組みへの投資

上記のプロジェクトは、コンパスグループのサステナビリティ戦略とグローバル規模のネットゼロ目標の達成に役立っています。

サステナビリティボンドの概要

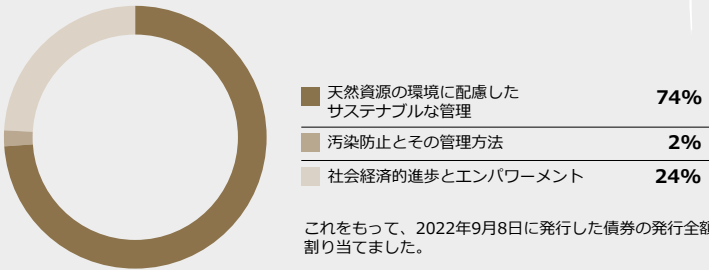
証券コード(ISIN)	発行日	発行体	償還日	利率	発行額（百万英ポンド）
XS2528582450	2022-09-08	Compass Group PLC	2032-09-08	4.375%	250
XS2528582377	2022-09-08	Compass Group Finance Netherlands B.V. (guaranteed by Compass Group PLC)	2030-03-08	3.000%	439 ¹

サステナビリティボンド総発行額					689
-----------------	--	--	--	--	-----

1. 発行額 5 0 0 (百万英ポンド)を 1 ユーロ=0.878英ポンドで換算

調達資金の使途

この報告書の発行日現在、コンパスグループは、当社初のサステナビリティボンド（6億8900万英ポンド）からの調達額は全額割り当てられています。このうち3億4200万英ポンドは、発行日前36か月以内に発生した支出に割り当てました。残る3億4,700万英ポンドは、2023年9月30日に終了する会計年度において債券発行後12か月間に発生する支出に割り当てました。全割り当ての詳細については付録1をご参照ください。



発行額は以下のカテゴリーに充当されています：

カテゴリー	概要	SDG s
天然資源の環境に配慮したサステナブルな管理	この分類においては、認証取得済みのエシカル取引されたコーヒーおよび紅茶、ケージフリー液体卵、認証取得のサステナブル・シーフードなどに割り当てられました。この支出は、食品の安全性と品質、誠実性、倫理的な取引、人権擁護、アニマルウェルフェア、サステナビリティの観点から、高い基準を満たすサプライヤーとのパートナーシップ確保の目的に役立てられています。	
汚染防止とその管理方法	この分類においては、肉の代替となるプラントフォワードメニューに使用される植物由来商品および原料の購入に割り当てられました。これは、プラントフォワードメニューのの需要を満たすためにも役立ちました。植物由来のタンパク質は、肉よりも二酸化炭素の排出量のはるかに少ないため環境にも優しいとされています。	
社会経済的進歩とエンパワメント	この分類においては、マイノリティ、女性、ならびにBコーポレーションなどのサプライヤーが提供する製品の購入に割り当てられています。これらは、倫理的でサステナブルなサプライチェーンを構築するという目標を推進するために活用しています。	

環境インパクト

当レポートの22～28ページでは、当社グループの持続可能な調達インパクトを記載しています。サステナビリティボンドの発行額は、サステナブルな調達目標を支援するためのグループ全体のサステナビリティ関連支出の一部にすぎません。当社グループは、サプライチェーンと連携し、アニマルウェルフェア、自然、生物多様性、地域のサプライヤーなどの分野を支える倫理的でサステナブルなサプライチェーンの構築に取り組んでいます。倫理的に取引したコーヒーや紅茶、サステナブル・シーフードの詳細情報については、当社ウェブサイトをご覧ください。www.compass-group.com/en/sustainability/performance-and-reports

付録 1:

コンパスグループは、2023年10月に発行した第1回サステナビリティボンドの収益の約50%の配分に関する第1回報告書（2023年10月サステナビリティボンド報告書）を当社ウェブサイトにて公開しています。

www.compass-group.com/en/investors/debt-investors/sustainable-financing

第2回報告書には、収益の残高配分を記載しています。当社の独立監査法人であるKPMG LLP（以下KPMG）は、保証基準ISAE（UK）3000を使用して、下表の△で示す特定の情報について限定的な保証を行いました。KPMGの限定保証に関する報告は当社ウェブサイトにて公開しています。www.compass-group.com/en/investors/sustainable-bond-allocation-report

ICMA 調整済み成果報告テンプレート（最終配分）

天然資源と土地利用 ポートフォリオ	締結金額 ¹	プロジェクトに 占める割合 ²	グリーンボンド 対象の割合	天然資源と 土地利用の割合	充当額	充当期間	平均支出期間
ポートフォリオ1： サステナブル、フェアトレード、 オーガニック、アニマルウェル フェア基準の認証を受けた 商品への支出	£689m	100%	100%	74%	£327m ³	10月19日-9月22日	該当なし (Opex)
					△ £186m ⁴ £513m		
汚染防止・監理 ポートフォリオ	締結金額	プロジェクトに 占める割合	グリーンボンド 対象の割合	公害防止対策の 割合	充当額	充当期間	平均支出期間
ポートフォリオ1： 廃棄物削減関連事業費 食品、エネルギー、 プラスチックなど	£689m	100%	100%	2%	£15m ³	10月19日-9月22日	該当なし (Opex)
					£0m £15m		
社会経済とエンパワメントの ポートフォリオ	締結金額	プロジェクトに 占める割合	グリーンボンド 対象の割合	社会経済と エンパワメントの ポートフォリオ	充当額	充当期間	平均支出期間
ポートフォリオ1： マイノリティや女性が経営する サプライヤー企業や Bコーポレーションなど地域の 多様なサプライヤーから購入した 製品への支出	£689m	100%	100%	24%	£0m	10月19日-9月22日	該当なし (Opex)
					△ £161m ⁴ £161m		

1 締結金額は、グリーンボンド融資の対象となるプロジェクト、プロジェクトのポートフォリオまたは割合に対して発行者が法的にコミットした金額を表します。
2 総プロジェクトに占める割合は、発行者が資金提供する総額に占める割合をさします。
3 当支出は債券発行前の36か月以内に発生したもので、2023年10月のサステナビリティボンド報告書に記載され、Carbon Clear Limited(EcoAct)による限定保証報告書が含まれます。
4 この支出は、社債発行後12か月以内に発生しました。

付録2:

重要事項：フレームワークの21ページにある「免責事項」をご参照ください。

www.compass-group.com/en/investors/debt-investors/sustainable-financing

フレームワークに含まれる情報、意見または将来の見通しに関する記述は、このサステナビリティ報告書にも適用されます。



“THE TIME FOR
ACTION IS NOW.

AS A

partner
WITH
purpose,

COMPASS IS MAKING
REAL

progress

TOWARDS REACHING

NET ZERO BY 2050

AND HELPING OUR CLIENTS

MEET THEIR ENVIRONMENTAL
AND SOCIAL COMMITMENTS.”

今こそ行動を起こす時です。

コンパスグループは、2050年までにネットゼロ達成に向けて真の進歩を遂げており、
パーパスを持ったパートナーとして、私たちのクライアントが
それぞれの環境・社会コミットメントを実現できるように支援します。

